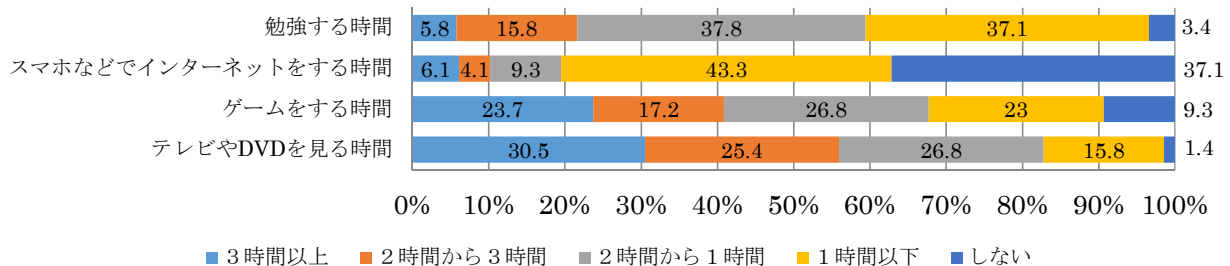


小学生の生活と学力の関連

学力調査と児童質問紙の結果を関連付けて分析しました。このことによって、子どもの生活の様子や学習への姿勢が学力の定着にどのように影響しているかを知ることができます。

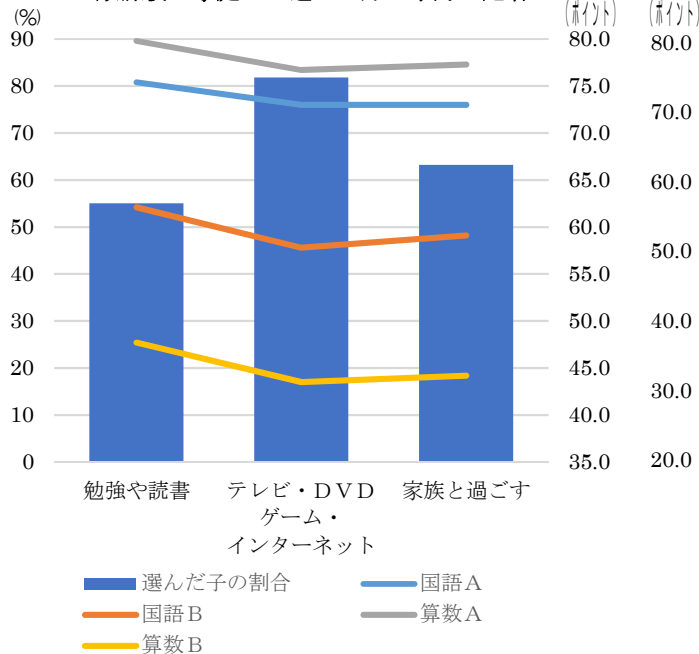
資料①

平日の家庭での過ごし方



資料②

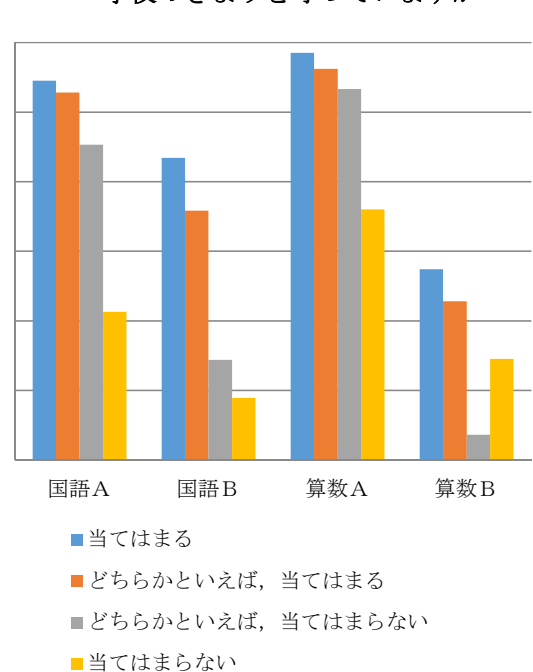
放課後の家庭での過ごし方と学力の定着



棒グラフは左の軸に、折れ線グラフは右の軸に対応しています

資料③

学校のきまりを守っていますか



資料①からは、清水町の6年生の約6割が、1日あたり2時間以上テレビなどを見ており、4割を超える子どもが2時間以上ゲームをしているという結果が出ました。

また、資料②の棒グラフからは、放課後の家庭で、8割を超える子どもがテレビやゲームまたはインターネットをして過ごしていることが分かります。さらに、資料②の折れ線グラフを見ると、放課後の家庭で、勉強や読書をしたり家族と過ごしたりすると回答した子どもは、テレビやゲームなどをしてしていると回答した子どもに比べ、学力定着度が高い傾向が見られます。

一方、「テレビやゲームなどの時間のルールを家の人と決めて」と回答した子どもは、約5割にとどまるという結果でした。資料③からは、きまりを守る子どもの学力の定着がとても高いことが分かります。「友達との約束を守る」という調査でも同じ傾向が見られました。約束を守る＝規範意識をもつことと、学力の定着には一定の関連があると言えます。御家庭での過ごし方について、お子さんと話し合ってみてください。

「全国学力・学習状況調査から見る清水町の子どもたち 2017」

編集 清水町授業力向上委員会 監修 清水町教育委員会（教育総務課） 発行 平成29年12月